

学校が避難所になるとき

炊き出しを行う、卒業生の中学生を中心とした子どもボランティア



熊本市立帯山西小学校

1年前の4月に起こった熊本地震。14日夜に発生した震度7の前震を皮切りに、その後も6強や6弱を観測する余震が相次ぎました。16日未明には再び震度7を観測する本震が起きます。たくさんの人々が学校に押し寄せ、避難所が相次いで開設されました。子どもたちのいない学校で、想定外のアクシデントも続出する中、学校教職員が主体となって避難所を立ち上げ、保護者の方や卒業生の子どもたちのボランティアに助けられながら初期運営を担い、「あそこの避難所は何かが違う」と周囲に言わしめた学校があります。それが熊本市立帯山西小学校です。森江一史校長先生、教頭の西岡智洋先生、学校栄養職員の宮崎史子先生、PTA副会長の南啓子さんにお話を伺いました。(2016年12月取材)

マニュアル外の事態が起きた

—熊本地震が起きてから1年がたとうとしています。地震など自然災害が発生したときの避難場所として、現在、多くの自治体が学校を指定されていると思います。とくに日本の場合、学校が地域コミュニティの中心になるケースが多くあります。欧米では、何か起きるとよく市庁舎や教会に人が集まってくるように、日本では「まず学校へ」と、どの人の頭にも自然に浮かぶのではないのでしょうか。その意味でも、今回の貴重な経験を誌面にまとめてみたいと思っています。

森江校長先生(以下「森江」) 震災後、新聞(朝日新聞・短期集中連載『てんでんこ・熊本避難ルポ』2016年6月7日～10日)等で取り上げていただいたこともあり、各地の防災シンポジウムなどに呼ば

れていただくことも多くなりました。今回はとくに避難所開設や運営に当たった教職員のことを中心にお話したいと思っています。

—まず帯山西小と校区について教えてください。

森江 熊本市の中心部から少し離れた住宅地にあります。もともと隣の帯山小から分かれて誕生した学校で、当時の帯山小は2,000人もの児童が在籍するマンモス校でした。、バイパスができたことで校区を2つに分け、西側が帯山西小となりました。進学先はどちらもおもに帯山中学校です。校区の町数は5町区。現在、職員は45人、児童数は618名です。現在、プレハブ校舎も設けています。

—14日の前震は夜の9時に起こりました。森江先生は学校にいらしたのですか？

森江 いいえ。当日は夕方に校長会があり、会後は自宅に戻っていました。前震が起きたのは職員が全員帰宅して、西岡教頭が戸締まりを警備会社の方と確認していたときと聞いています。

—西岡先生とはすぐに連絡がとれたのですか？

森江 電話はまったく通じませんでした。ようやくメールが届き、「たくさんの避難者が学校に来ています、どうしましょう。体育館を開けましょうか？」とあり、「開けてください。私もすぐに駆けつけます」と返しました。自宅もガタガタ揺れて大変でしたが、幸い家族は無事でしたので、急いで学校へ向かいました。

— 到着されたとき、学校はどんな様子でしたか？

森江 すでに運動場や体育館にたくさんの方々が集まっていました。正門前にはすでに車が列を作っていました。

到着して、西岡教頭に一番に言われたことは、警察の方が来られて、『誰が体育館に入れたのですか』と聞かれたというのです。「校長の指示で」と答えたら、「すぐに出してください」と言われたそうです。

— と申しますのは？

森江 これは私自身の反省にもなるのですが、市の避難所開設マニュアルでは、大きな地震があったとき、屋根のある大規模施設を一時避難場所を使用することはできないことになっていました。私もひと通り目を通してはいたのですが、とっさに頭に思い浮かびませんでした。

ただ、後に校長会で他校の様子も伺うと、前震後、本校のように体育館を開けてしまった学校は少なくありませんでした。深夜に向かい、春先ですからだんだんと冷え込んでくる。体の不自由なお年寄りもいて、震えていらっしやる中、「取りあえず屋根があって、横になって休める場所へ」と判断されたのですね。

しかし、体育館の天井から落下物があった学校も市内にはありました。「もし落ちていたら…」と思うと、今でもぞっとします。今回の地震では、こうしたことのほか、事前に準備されていたマニュアルがうまく機能しない場面に多々遭遇することになりました。

熊本市中心部と
帯山西小学校の
周辺地図
©Google



来るはずの姿がない…

森江 一番は、避難所設置や運営を担うことになって地域の方が来校されなかったことです。マニュアルでは、避難所の運営主体を地域としていました。学校はそれを支える役割です。後にわかったことですが、地域の担当者の方には高齢の方が多く、離れて暮らす家族の方から「外には出ないで!」とか「こちらにすぐに避難してきて!」と言われたそうなのです。これは想定外でした。本校の校区は、もともと市内でも防災意識の高い地域として知られていました。防災士の資格を持った方を中心に、毎年9月の第1土曜日には「校区防災の日」という恒例行事も行っていました。年末の地域行事では非常食の試食をし、大鍋で炊き出しの豚汁を作ります。しかし今回、それが初動ではまったく機能しなかったのです。

— そうでしたか…

森江 さらに、この避難所の運営主体の決め方に盲点もありました。行政が避難所を指定するとき、校区ごとに考える自治体は多いと思います。しかし、その場合の「校区」とは、ほとんどの場合「小学校区」なのです。本校の校区には他にも避難所が2つありました。帯山中学校と市営熊本競輪場です。ところが、きちんとした運営マニュアルがなかったため、中学校の避難所は誰が運営するの

か、競輪場は誰なのか。もちろん災害発生時に市の職員がどこの担当になるかまでは決めていたようですが、今回のように避難が長期化した場合、誰を中心に運営するかまで詰めていなかったようなのです。ですから、帯山中学校でも本校と同じように校長先生が駆け回らなければならない事態になりました。

—なぜ、そんな不備が生じたのでしょうか？

森江 私が思うに、当時のマニュアルは今回のような大型地震を想定していなかったのでしょう。おもに考えられていたのは、台風災害でした。台風ですから、最接近の日時等は、ある程度、見通せます。そのため、学校の備蓄倉庫には、20～30人ほどの避難者が数日間過ごすための物資しかありませんでした。まさか、熊本で大地震が発生するとは、当時、誰も思いませんでした。

学校避難所の3つのパターン

森江 後の校長研修会で、今回の地震における学校での避難所の開設や運営について、大きく3つのパターンに分かれたことが話題になりました。

1つ目は、当初のマニュアルどおり、地域が中心となって避難所の開設や運営ができたところです。学校は極端な話、ただカギを渡して「お願いします」と言うだけでよかった。そして本来の業務である、子どもの安否確認や家庭訪問、通学路の点検といった仕事に専念できたのです。

2つ目は本校のように、いや応なしの状況下で、学校が主体となって避難所の開設や運営を行わなくてはならなくなったところです。

3つ目は、地域でもなく、学校でもなく、避難所の専門家といえますか、県外から来られたNPO法人の方などを中心に運営されたところです。地域も学校も、もうどうしてよいかわからない状況下で迅速に入ってこれ、積極的にイニシアティブを取って運営していただきました。そう

した方々は、行政に頼らずにさまざまなルートで物資やボランティアを集めることができます。初動においては、地域や学校主体の避難所より、むしろうまくいったケースもありました。しかし同時に課題も残りました。

—それは何ですか？

森江 時間がたち、学校再開が決まって、子どもたちが学校に通う頃になると、どうしても児童・生徒と被災者の方が、一時的に校舎内で共存するようになります。やはりそうした方々は、これは当たり前のことですが、心情的に避難者の方第一になる。学校が「特別教室を使いたい」「体育館も半分でもいいから空けてほしい」と思っても、なかなか言い出しにくい雰囲気になってしまったというのです。仕方なく、最後は行政が間に入り、何か追い出してしまうような形になった。避難者の方とも支援に来られた方とも、結果的によい関係になれず、後味が悪かったというのです。

—難しい問題ですね。

森江 それを考えたとき、本校が比較的うまく行った一番の理由は、学校が初動で避難所開設と運営のルールを敷き、あまり間を置かず地域の方にバトンタッチできたからだと思います。

確かに初めは地域の方も、行政の方も来られず、もう学校だけでやるしかない状況で、他に選択肢はありませんでした。私も職員も避難所運営についてはまったくの素人です。ひと通りマニュアルは読んでいたものの、先の体育館の例のように、自分事として使いこなせていない。職員自身も被災していますから、全員で運営に当たることもできませんでした。最初は「やれる職員で、やれるところでやっていきましょう」とスタートさせたのです。ただ結果的に大変うまくいきました。

学校には学校栄養職員や養護教諭など専門職もいましたし、子どもたちの集団を指導していくというのが私たち教員の仕事ですから、避難所の運

営もその延長で無理なくできた部分がたくさんあったのです。

—では時系列にそって、避難所開設、そして学校再開までのお話を伺っていききたいと思います。

熊本地震 帯山西小学校のできごと (前震から翌日まで)

| | | | |
|---------------------------|-------------------------------------|--|--|
| <p>2016年 4月14日(木)</p> | <p>21:26</p> | <p>前震(M6.5, 震度7)発生。</p> <p>教頭の西岡先生が警備会社の方と戸締まりを確認して帰宅されようとしていたときに地震発生。森江校長先生は校長会があり、その日はそのまま自宅に戻っていた。</p> <p>地域の指定避難場所になっていた学校に、周辺の住民の方々が集まってくる。</p> <p>電話が通じず、ようやくメールで互いにやりとりができた。西岡先生、体育館を開けてよいか確認をとる。森江校長先生から「開けてください」との指示。体育館と運動場を避難所として開設。</p> <p>※電気・ガスはまだ使えた。</p> |  <p>運動場から見た帯山西小学校。手前はプレハブ校舎、右奥が体育館</p> |
| <p>4月15日(金)</p> | <p>22:07</p> | <p>震度6弱の余震発生。</p> <p>森江校長先生が学校到着。マニュアルで学校に集まることになっていた地域リーダーさん来校できず。</p> | <p>西岡先生、パトロールで来校した警察官に、「なぜ体育館を開放したのか」と聞かれる。</p> |
| <p>0:03</p> | <p>震度6強の余震発生。</p> | <p>安全を考え、体育館に避難してきた方を外の運動場に出し、体育館を一旦閉鎖する。運動場には500人ほどの避難者が集まっていた。</p> <p>市職員(マニュアルで定められた方ではなく、緊急招集された方)が来校する。</p> <p>西岡先生、防災倉庫を開けて毛布を提供。20枚ほどしかなかった。</p> <p>寒さや高齢の避難者のことを考え、避難者からの要請もあり、自己責任で体育館を再び開放。</p> <p>熊本市より、15日は全市の公立小中学校を休校にする連絡が入る。</p> |  |
| <p>朝</p> | <p>0:42 6:42</p> | <p>休校をメール配信。</p> <p>再度、休校をメール配信(保護者からの問い合わせ電話が殺到した)</p> <p>森江校長先生と西岡先生、防災倉庫にあった100人分のアルファ化米を職員室でお湯を沸かしてもどし、150人に配る。配れなかった方もいた。市職員の方に、交代時、食料を持ってきてもらうようお願いする。</p> <p>教職員の先生方が出勤してくる。今後の対応を確認。児童の安否確を行う。</p> |  |
| <p>8:56</p> | <p>月曜日(18日)の登校についてメール配信。</p> | <p>月曜日(18日)の登校についてメール配信。</p> | <p>前震後、15日朝に森江校長先生、西岡教頭先生、市職員の3人で行った炊き出し。100食分を袋に分け、150人分にして配った。(当日の写真)</p> |
| <p>11:16</p> | <p>けがをした児童がいたら学校に連絡するようにメールを配信。</p> | <p>けがをした児童がいたら学校に連絡するようにメールを配信。</p> | <p>けがをした児童がいたら学校に連絡するようにメールを配信。</p> |
| <p>15:35 夕方</p> | <p>月曜日の下校を保護者引き取りにすることをメールで配信。</p> | <p>「怖くて家に戻れない」という20人ほどが、そのまま学校(体育館)に残ることを希望。森江校長先生が学校に泊まることにする。教頭の西岡先生と教職員は一旦帰宅。</p> | <p>前震後、15日朝に森江校長先生、西岡教頭先生、市職員の3人で行った炊き出し。100食分を袋に分け、150人分にして配った。(当日の写真)</p> |

14日「前震」後の状況

— 校長先生が学校に到着されて、まず体育館をそのまま開放するかどうかの判断がありました。

森江 屋内施設は被災後、点検して安全を確認してから避難者を入れるというマニュアルの規定でした。重ねがさね避難者の方を入れてしまったのは反省点です。ただ夜で、小さいお子さんもいた。余震が続き緊急地震速報のアラームがあちこちでひっきりなしに鳴ります。そうして震えていらっしゃるところに、「体育館からすぐ出てください」とはとても言えませんでした。

「どうしよう…」と思っていたとき、0時を回ってさらに大きな余震が起きました。そこで私がハンドマイクを持ち、「警察から今後の余震に備え、避難場所を運動場にするようにとの指示が出ました。至急出てください」と伝えたら、全員が出てくれました。そして体育館を閉鎖しました。もちろん安全点検さえできれば、再び使うことはできたのですが、点検できる人がいない。私や教頭では無理です。ただ、判断は本当に迷いました。お年寄りの方がいらして、十分な数の毛布がない。しばらくして避難者の方から「やはり体育館で休んでもらった方がよいのでは…」という声も上がりました。そこで、「ここからは自己責任になりますが、落下物の心配がないところを見つけ、体育館に戻ってもいいです」と言いました。何人かは再び体育館に戻り、朝まで休まれていました。

— 朝は備蓄倉庫のお米で炊き出しをされました。

森江 アルファ化米、本当にありがたかったです。私も教頭も訓練で食べたことがあり、作る場所も見えてはいましたが、自分たちでするのは初めてでした。説明書を読みながら、1箱50人分の混ぜご飯を2箱作りました。前震のときは、まだ水道も電気もガスも通っていましたが、職員室の湯沸器でお湯が沸かせました。100人分でした

が、少し量を減らし、150人分くらいを用意しました。容器が足りない分は、事務室のビニール袋に入れて提供しました。

ただ避難者の数は300人以上。もちろん全員には渡りきりません。これは今思い出してもつらいことですが、「家族が4人いるので、4つください」と言う方がいました。「年寄りがいて取りに来られない」と。ただし、そう言われる方はその方だけではありません。「すみません。列に並んだ方に1人1個でお願いしています」と頼んでも、だめだと言いつける。そこで「わかりました。後で担当に持って行かせます」とその場を引き取らせ、後で教頭に申告数分持っていってもらおうと、その人はいない…。そんな人間の嫌な面も見えてきて本当につらかったです。

— 学校には、お二人だけだったのですか？

森江 いいえ。市職員の方が1人、夜中に来られました。後でわかったことですが、その方は本来は本校担当ではなかったそうです。役所に行ったところ何の指示もない。保護課とって各校区を担当する部署で、課長さんから、「まず各校区の様子を見てきて」と言われてきたそうです。15日の朝はこの3人で切り盛りしました。もちろん避難者の方で手伝ってくださる方もいました。

— 金曜日の翌朝は、教職員の方はふだん通りに出勤されたのですか？

森江 はい。大体、出てこられました。学校は休校することに決まりましたので、職員で「次にどうするか」という話をしました。避難者の方も、家の片付けに一旦戻られました。ただ高層マンションにお住まいの方などで、「家に帰るのが怖い」と、学校に残られる方が20人ほどいました。そこで、夜は私が学校に泊まることにし、その日は西岡教頭と他の職員は家に帰りました。

熊本地震 帯山西小学校のできごと (16 日未明の本震から)

| | | | |
|----------|--------------------|--|--|
| 4月16日(土) | 1:25 | <p>本震 (M 7.3, 震度 7) 発生。</p> <p>※電気とガス、水道が止まる。ただし、本校舎だけは屋上貯水槽からの水で水道が使用できた。</p> <p>大勢の地域の方が車で学校に避難してくる。運動場に車が入りきらなくなり、徒歩で避難される方の安全も考え、森江校長先生が正門の車両出入口を閉じる。500人くらいの方が避難されてきた。</p> | |
| | 2:55 | <p>熊本市教委より学校施設を避難所として開設するよう、管理職個人アドレス宛にメールが届く。</p> <p>来校した市職員の方が交代するときに、アルファ化米やパンなどを学校に持ってきてもらう。</p> | |
| | 7時頃 | <p>西岡教頭先生が学校に到着。防災倉庫を開け、カセットこんろと発電機を出す。</p> <p>熊本市教委より教室を避難所として開設するように指示が届く。</p> | |
| | 10:02 | <p>メールで出勤可能な職員を招集。「停電、断水が続いているので各自準備を」</p> | |
| | 10時頃 | <p>森江校長先生と西岡先生で2回目のアルファ化米の炊き出し。パンも配る。</p> <p>しかし、足りずにクレームが殺到。</p> <p>有志の教職員が出勤してくる。</p> | |
| | 11:14 | <p>18日(月)の全市一斉休校をメール配信。</p> <p>集まった職員で会議。当日、夜から雨の予報が出ていたため、避難所として教室を開放する準備をする。</p> <p>水が使えなくなったプレハブ校舎のトイレ清掃も行う。</p> | |
| | 15時頃 | <p>教室開放の準備整う。高齢者の方を平屋のプレハブ校舎、他の方は東校舎の1～3階に入れる。</p> <p>西岡教頭先生、学校の状況を Facebook で発信。</p> <p>夕方、市からようやく食料が届く。300人ほどが学校に泊まる。</p> | |
| | 22:40 | <p>18日(月)～20日(水)まで休校にすることをメール配信。</p> | |
| | 4月17日(日) | 朝 | <p>有志の教職員が数名出勤。宿泊できる職員が当番制で学校に詰めることにする。電気が復旧。</p> |
| | | 17:05 | <p>米を集めることにする。教頭の西岡先生が連絡メールで、学校でお米を集めることを配信。子どもたちが次々に届けに来る。3時間で400kgの米が集まった。</p> |
| 17:27 | | <p>最初の支援物資が届く。</p> | |
| 4月18日(月) | 夕 | <p>家庭科室を使い、電気釜で500人分のご飯の炊き出しを開始。職員の発案で翌日の朝食の分まで用意。</p> | |
| | 夜 | <p>市教委から「避難所の運営に教職員が2人ずつ交代で対応するように」との指示。</p> | |
| | 0:54 | <p>西岡先生の SNS を見て、有志の松川一人さんが奈良県から車で支援物資を届けてくれる。</p> | |
| | 6:30 | <p>職員に、電気炊飯器を学校を集めることをメールで配信。</p> <p>朝食を配る。</p> | |
| | 朝 | <p>勤務日で全職員が出勤。職員会議でこれまでの経過を説明する。</p> <p>家庭科室での炊き出しがスタートする。教頭の西岡先生と学校栄養職員の宮崎史子先生とで支援物資をやりくりながら献立を考える作業が始まる。</p> <p>卒業生の中学生たちが手伝いに集まってくる。</p> <p>宮城県気仙沼市立階上小学校の海原校長先生から電話。</p> <p>自衛隊に米炊き出しの援助を要請。</p> | |
| | 17:57 | <p>休校を22日(金)まで延長することをメール配信。</p> | |
| 20:30 | <p>自衛隊の先遣隊が来校。</p> | | |



16日未明「本震」後の状況

森江 本震のときは電気やガス、水道も止まって、もうどうしてよいかわからない。さらに前震とは違い、車で避難されてくる方がたくさんいました。車は便利です。荷物を詰め、家族一緒に行動できます。当時、学校には私と市職員の2人しかいませんでした。車がどんどん正門に集まってきて、とっさに私は「これは危ない!」と感じました。夜中で運動場には徒歩で避難されてきた方もたくさんいたからです。そこで「すみません。これ以上運動場に入ると危険なので、車はもう入れません」と正門(車両通用門)を閉めました。学校前の道路はもう大渋滞です。

正門の横に立って、平謝りに謝りました。中には「体が不自由な年寄りがいる。入れてくれ」とお願いされたりもして、本当につらかったのですが、それでもお断りして…。そうしたら西岡教頭から電話が来て、ご自宅の塀が倒れたといます。「車が出せません…」という連絡でした。今度は体育館を初めから閉鎖し、全員を運動場へ誘導しました。じつはこのことが後に避難所を開設するときの1つの大きなポイントになりました。

西岡教頭先生(以下「西岡」) 本当はすぐにも駆けつけたかったのですが、塀が倒れてしまい、周囲も真っ暗で車が出せなかったのです。私自身も地域の小学校に避難しました。そこは本校とは異なり、正門で誘導する方がいなかったのもう大変なことになっていました。夜が明け、どうにか車を出すこともでき、学校へ向かいました。

—再びお二人で炊き出しをされました。

森江 当時、食料をどう手配していたのか、記憶が定かではありません。15日に備蓄倉庫のアルファ化米を使い切ってしまったので、学校に来た市職員の方に「何か食べ物を」と頼み、交代のときなどに運んでいただいていたのだと思います。

そうした食料の中には、15日の給食で使うはずだったコッペパンもありました。袋に「〇〇小」と書かれてあり、「これ、給食のパンたい…」と思った記憶があります。本震でガスと電気が使えなくなりましたから、西岡教頭にカセットコンロと発電機を備蓄倉庫から出してきてもらい、再びアルファ化米を用意して配りました。水道も止まってしまったのですが、幸い、本校舎だけは屋上貯水槽からの水で水道が使えました。

帯山西小学校の校舎配置図



西岡 15日の前震の後はまだよかったです、16日の本震の後、食べ物もう奪い合いのようになりましたね。

森江 配る物がなくなっても、まだ列を作って並んでいらっしゃる。避難者の方からは「どうして全員に配れないとわかってたのに並ばせたのか!」とまで言われました。ただ、こちらも何食分用意できるか、事前に予定して知らせることはできませんでした。「次はいつ来るんですか?」とも聞かれました。市役所の方もいたので、本庁に照会してもらうのですが、「届くとは聞いているが、いつとか何個かまではわかりません…」という返事です。こちらからは避難者が何人いるかの情報は随時上げていたのですが、その分の食料が届く保証はないと言うのです。もう仕方がなかったので、「お昼には来ると思います…」とか、「夕方には届くと聞いてます…」と、その場を言い繕うしかありませんでした。

そもそも避難者の方は、私や西岡教頭を本校職員だと知りません。市役所の職員だと思って、遠慮なく不満やクレームをぶつけてきます。後で「何だ、校長先生だったんですね」と言われたくらいで(笑)。ただ、それは仕方のないことでしたが…。

教室を避難所として開設

—土曜日でしたが、職員を集めました。

西岡 16日朝の時点で、市教委から校舎の教室を避難所として開設するようにメールで指示がありました。ただ職員も被災者です。来られる職員だけでよいということで連絡しました。

森江 これも盲点だったのですが、地震があったのが4月で、新年度が始まったばかり。名簿や連絡網もきちんと作られていなかったのです。この指示も教育委員会で把握されていた管理職の個人アドレス宛に流されたものでした。教育委員会

も相当大変なことになっていたと思います。

—教室を開放されることには、職員からかなりの反発や違和感の表明があったと伺っています。

森江 はい。生徒や学生が入れ代わり立ち代わり入る高校や大学の教室と違い、とくに小学校における教室は、担任にとっては自分の部屋みたいなものです。児童や先生方の私物もあります。よく講演などで当時の経験を話すのですが、やはり教職員の方々からは一様に、「教室だけはやめてほしい」と言われます。

—そこはもしかすると、一般の人の感覚からは、なかなか想像しにくいことかもしれません。

森江 ええ。ただ市教委からの指示もあり、その日は夕方から雨という予報でした。これはもうすぐにでも片付けなければならない。集まった職員で、子どもたちのものを隠し、夕方の17時には避難された方に入ってもらう予定で取りかかりました。とくにトイレの準備は大変でした。本校舎はまだしも、プレハブ校舎は水道管が破裂して汚物が流せない状況です。トイレは避難者にすでに開放していたのですが、水が使えず、トイレットペーパーをそのまま投げ込んでいくので、汚物が便器から溢れ出していました。女性トイレはとりわけひどかったようです。担当した女性教員がゴム手袋をはめ、本当によくがんばってくれました。頭が下がります。

—教室での避難所開設はどう進められましたか。

森江 17時の開設予定でしたが、職員のがんばりで15時には教室やトイレの準備ができました。平屋のプレハブ校舎には高齢の方や体の不自由な方を優先で入れ、普通教室のある西校舎には家族や地区ごとに入ってもらいました。そのまま運動場の車に避難される方もいました。ペットを連れて方もおられたので、児童昇降口を臨時のペットコーナーにし、どうしてもペットと一緒にいた

い方には、そこに泊まっていただきました。ここは外からそのまま出入りもできたので、結果的に非常によい場所を割り当てられたと思います。

家庭科室の明かりが希望を照らす

—食べ物はどうされたのですか？

西岡 幸い水が使える、電気は比較的早く復旧しました。隣の帯山小でPTAがお米を集め出したと聞いて、「そうか、お米さえ集まれば…」と聞きました。保護者向けのメール連絡網を使い、学校にお米を持ってきてくれるよう呼びかけまし

森江 早い子は、送信してから15分くらいで学校に来ましたね。「校長先生、持ってきたよ!」と。あれよあれよと、3時間で400kgもの米が集まりました。本校の家庭科室は1階にあり、しかも職員玄関のすぐ横。最初からそう考えて設計したのではないのですが、結果的にとてもよく機能しました。食料など物資の搬入が楽で、しかも夜、炊き出しをしていると、ガラス窓越しにもれる明かりや食べ物のおいしさで、避難された方々がとても元気づけられたといえます。

ところでPTA組織についてですが、こちらも本校では想定外のことがありました。じつは本校のPTA会長さんは県庁職員の方で、地震後はずっと庁舎に詰めていました。学校に駆けつけたくても来られなかったのです。そのため当初は、本



ペットコーナーにした
児童昇降口(現在のようす)



避難所として
開放した普通教室
(現在のようす)

帯山西小学校校舎 各教室等の位置関係



学校からの呼びかけで集まった400kgものお



正門から見た帯山西小玄関
(現在の写真)



玄関からバケツリレーで物資の
搬入を行った(当時の写真)。



炊き出しの中心
となった家庭科
室(現在のよう
す)

校のPTA組織もうまく機能できませんでした。

ともあれ、こうしてお米も集まったので、職員が家庭科室の電気炊飯器で炊いて、おにぎりにしました。500人分くらいだったと思います。職員のアイディアで翌日の朝食分も作っておくことにしました。さらに西岡教頭はSNSを使って、本校の状況を随時発信してくれていました。

西岡 Facebookで発信していたのですが、それを見た仲間が拡散してくれました。すると、ちょうど18日に日付が変わる深夜、何と奈良県から、たくさんの支援物資を車に積んで駆けつけてくれた方がいらしたのです。

森江 松川一人さんという篤志の方です。深夜の職員室に松川さんが現れたときは、「これは夢ではないか…」とさえ思いました。松川さんは、東日本大震災での経験から、「初動は行政を待ってられない。まず困っているところに直接物資を持っていくんだ」と、軽ワゴン車ではるばるやって来てくださったのです。

—本当にありがたいことですね。そして月曜日、18日の朝を迎えます。

中学生ボランティアが大活躍

森江 勤務日になりましたから、職員はほぼ全員出勤してきました。職員会議で、私から再び本震後の経緯を説明し、「お米があるので、炊いて提供しましょう」と提案しました。

炊き出しや避難所の運営については、当初は市教委の指示通り、職員の輪番制で行い、本来の学校業務を行いながらできると考えていました。ですが、実際に米を炊き始めると、やはり大勢の人手が必要でした。家庭科室の備品や職員の私物の小さな電気炊飯器で炊くものですから、次々炊き続けるといけません。当番制ではとても無理なことがすぐわかりました。学校栄養職員の宮崎は

つきっきりになり、見かねた他の先生方も応援に入ります。すると職員室で他の業務をする先生は、何となく悪いことをしているような、居心地の悪い雰囲気になってきます。実際のところ、そんなふうには誰も思っていないのですが…。これが後にちょっとした職員間のわだかまりに発展してしまいました。

ただ、とてもうれしいことも起こりました。こうした先生方のがんばりを見ていたのでしょうか、避難所にいた、本校卒業生の中学生3人が「校長先生、何かお手伝いすることはありませんか」と申し出てきてくれたのです。

—それはうれしいですね。

森江 はい。ただ、これも後でどうしてこんなことを言ってしまったのだろうと反省しきりなのですが、自分も疲れていたせいか、子どもたちにお礼を言う前に、つい、「えっ、3人しかおらんや…」と言ってしまったのです。するとその子たちは、3~4人の自分の友だちに声をかけ、さらにその友だちが別の友だちに連絡して…と、あっという間にたくさん子どもたちが、学校にボランティアとして集まってくれました。

—おお〜っ。

森江 本校は熊本市の『学校環境緑化コンクール』で2年連続でグランプリをとったほど、もともとボランティア活動が盛んな学校です。在学中から取り組んでいるので、子どもたちはボランティア活動があまり苦にならないようです。

さらに子どもたちに学校避難所の運営を手伝ってもらうことで、実際、とても大きなメリットがありました。卒業生ですから、校舎内の教室の場所や備品がどこにあるか頭に入っています。じつは、地震から日にちがたつにつれ、「地震直後の、あの食料が届かない状態は何だったの!？」と思うくらい、たくさんの支援物資が入ってきました。トラックが次々と来るたびに、「この荷物、〇〇

室に運んでおいて」というひとりで、子どもたちはわかる。これが県外から来たボランティアの方だったなら、おそらく最初は、私たちがつきっきりで校舎の案内から始めなければならなかったでしょう。運動場が車のタイヤでデコボコになり、手当てをしたいときも、「水たまりに砂を入れたいんだけど…」と言うだけで、子どもたちは砂場がどこあり、一輪車はどこ、スコップは農具倉庫から持ってくる。そのカギは教頭先生に借りる。そして返却の仕方まですべてわかっています。だから指示が一発で通る。これが卒業生の子たちに手伝ってもらうことの大きなポイントでした。

もちろん卒業してから、職員の異動もあり、知らない先生方もいます。でも子どもたちが知っている教員も何人かは残っています。そうした先生から「来てくれて、ありがとう」と言ってもらえるのがうれしかったのか、常時40～50人の子どもがいました。仕事がないときは職員玄関付近に座り、楽しそうに話をしている、こちらもあまり気を遣わなくてよい。そしていざ仕事となれば、「ボランティア、集まって!」と声をかけるだけで、すぐ取りかかってくれました。

周囲の大人も明るくなります。子どもたちが避難者の方々に「がんばってください!」と声をかけて食事を配ると、避難者の方々も「あ～、元気になった」と励まされる。子どもたちの笑顔があり、子どもたちの声が響く避難所になっていきました。当初はそんなことはまったく考えもせず、



炊き出しを手伝う子どもたちのボランティア

正直、「まあ手伝ってくれるというのなら、ありがたいかな…」くらいの気持ちだったのですが…(笑)、結果的に子どもたちに手伝ってもらったことで、避難者の方が元気になる。先生方も助かるし、そして何よりとてもうれしい。しばらくすると小学生の弟や妹さん、高校生も手伝いに来てくれるようになりました。

避難所の視察に外から来られた方は、「どうして帯山西小の避難所は他と違うんですか。なぜこんなに活気があるんですか」とか、「秩序がよく保たれていますね」と感心されていましたが、その大きな理由が、この子どもたちの存在にあったのではないかと考えています。

「私たちがやるしかない!」

—伺にくいことかもしれませんが、先ほどおっしゃった「教職員間のわかまり」についても教えてくださいいただけますか?

森江 教職員が通常通り出勤し、本震後、本校の避難所が本格的にスタートした初日の18日はまだよかったのです。しかし当時は、本当にこれから先どうなるか、こうした状況が一体いつまで続くのかまったく見当がつかないわけです。今回の地震では、教職員自身も被災者です。自宅が壊れたり、お子さんや世話が必要な家族の方を抱えていたりもする。実際、避難所や避難した車から学校に来ていた先生もいました。

2日目の19日のことでした。私の耳に「なぜ、私たちがしないとイケないの…」とか、「市役所や地域の方はどうして来ないの、何をしているの?」といった職員の愚痴が聞こえてきました。決定的だったのが、夕食の炊き出しについて話し合っていたときです。避難者の中には、ここから勤め先に出ていた方もいらしたので、私は夕食提供を、今後も18時を目途に行っていきたいと考えていました。職員会議で「それまでにできる準備をしましょう」と切り出すと、「18時というと、17時まで

の勤務時間を過ぎています。炊き出しを16時半からにしてもらえないだろうか…」といった声が聞こえてきたのです。それはある意味、先生方の本音だったのでしょうか。もちろん炊き出しの手伝いは任意です。家庭の事情で定時に帰ってもらって一向に構いません。また残られる先生方も何も言うはずはないのです。

しかし、どうしても帰らざるを得ない先生は、やはりどこかで心の負担になっている。お恥ずかしい話ですが、会議で思わず声を荒らげてしまいました。「先生方、そうは言っても、ここに集まった300人もの方々の食事をどうするのですか。『地域の人が来ない』と言っても何も始まりません。

市役所の人だって、向かいたくても向かえない状況です。できる私たちが、できるところでいい。こうなったら腹をくくって、教職員で運営するしかないでしょう。早く帰らなければならない先生に文句を言う先生は、ここには誰もいません。この緊急事態で!』と。そんな私の気持ちも察してくれたのか、もう先生方の中から自然に「みんなでやってみましょう!』となりました。

こうして覚悟が定まり、教職員全員の気持ちが避難所運営に向かっていったのです。そしていざ本格的に運営に取り組み始めると、これが意外にも、私たち教員の仕事が避難所運営に向いていたといえますか、ふだんの仕事の延長でこなせる部

熊本地震 帯山西小学校のできごと (19日～体育館避難所開設・閉鎖まで)

| | | |
|----------|-------|---|
| 4月19日(火) | | 職員会議「こうなったら教職員で運営するしかない」「みんなでやりましょう」 教職員、避難所の支援物資の管理、衛生への注意喚起、文書作成など運営に当たる。 |
| | 11:10 | けがをした児童がいないか、確認するためにメール配信。 大分県から10人ほどの自衛隊員が到着。釜を使って炊き出しをしてくれる。 |
| 4月20日(水) | | 臨時職員会議 |
| | 10:46 | 教科書等の学用品について逸失がないか確認するためにメールを配信。 |
| 4月21日(木) | | 職員による家庭訪問開始。 |
| | 13:54 | 5月10日(火)を目標に学校を再開する予定であることをメール配信。 |
| | 21:37 | 西岡教頭先生、建築家・坂茂氏の事務所に避難所設置についてメールで問い合わせ。 |
| 4月22日(金) | 0:06 | 坂茂建築設計事務所から避難所パーティションの設計や設置日程について返信が届く。 自治協議会役員会(第1回)の開催。翌週より避難所の運営主体を地域に移すことを決定。 『帯西避難者の会』登録カードを配布。 |
| | 16:11 | 閉鎖していた体育館にパーティションによる避難所を設置することが確定。 |
| 4月23日(土) | | 体育館に避難所パーティション部材を搬入。 |
| 4月24日(日) | | 体育館に避難所パーティションを設置する。 |
| 4月25日(月) | | 宮城県気仙沼市立階上小学校に学校再開についてFAXで相談。 |
| 4月26日(火) | | 体育館避難所への移動者を決定。 階上小学校から回答が寄せられる。 |
| 4月27日(水) | | 体育館避難所への移動者通知。 自衛隊の援助部隊が撤収。 |
| 4月28日(木) | | 避難所を教室から体育館に移動。「帯西避難者の会」が正式に発足する。 震災前に準備していた児童製作の「かるた」を階上小学校に送る(5月4日到着)。 連休中の宿直は職員が当番制で行うことにする。前震後から続いた森江校長先生の宿直がようやく終わる。 |
| 5月5日(木) | | 避難所を体育館から児童育成クラブ室に移動することを通知する。 |
| 5月9日(月) | | 避難所を体育館から近くの児童育成クラブ室に移動する。 |

分がとても多いことに気づかされたのです。

学校は避難所運営に向いている！

森江 避難者は校内や運動場に300人、炊き出しの食料だけ取りに来る方まで含めると500人もいました。先生方はそうした集団をととても上手に動かすことができました。ふだん子どもたちの集団を指導しているのと同じ要領でできたからです。

たとえば「食事の準備ができました」という知らせも、ただそう言うだけなら、おそらく一斉に人が殺到して取り合いになります。その点、先生方は「食事の準備ができましたので、体育館の前から一列に並んでください」と言います。この「一列に並んでください」というひと言があるかないか、言えるか言えないかが違うのです。トイレのスリッパについても、学校では厳しく「次の人が気持ちよく使えるように、向きをそろえて並べましょう」と指導しています。それは避難所でも同じでした。養護教諭の先生が書いた張り紙が1枚あるだけで、みんなの使い方が変わりました。そういうことに気づくことができるか、そしてすぐにできるか。それが大きな違いになるのです。

さらに支援物資の在庫管理です。これも先生方は非常に手慣れていました。何がいくつ足りないか、すぐ答えることができました。また生理用品のことなど、男性ではなかなか気が回らないことや相談しにくいことについても、「女性職員が対



先生方により管理された支援物資と、炊き出し調理場となった家庭科室に張り出した衛生管理のための掲示物

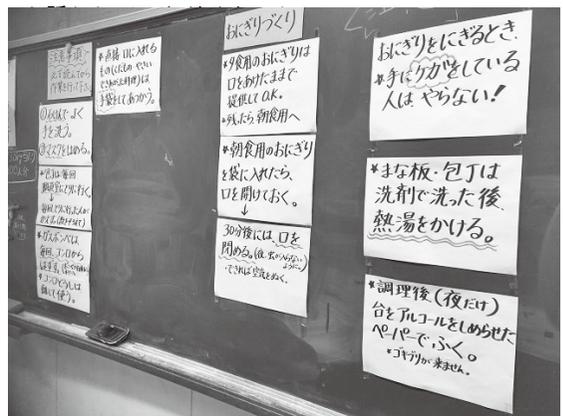
応しますので、いつでも申し出てください」と掲示物を作って張り出し、きめ細かく対応していただきました。

そして炊き出しです。学校にはプロの栄養士や調理員がいます。給食室はガスが止まって使えませんでしたでしたが、献立の栄養バランス、調理中の衛生管理など、学校栄養職員がいつも注意を促してくれました。炊き出しの献立表を作れたことも大きかったと思います。「今日は〇〇が食べられる」と思うと、やはり自然に元気が沸いてくるものです。そのせいもあってか、「帯山西小に行くと、何やらいいものが食べられる…」といったうわさまで立つようになりました。

このように先生方がなされたことは、何も学校が避難所になって特別にされたことではありません。そうであったら職員もきっと負担になったと思います。そうではなく、いつも学校で子どもたち相手にやっていることを、今度は大人を相手に伝える。あくまで結果的にではありましたが、思っていたよりも容易にできたと思います。

食事で事故を起こさせない！

—ここで炊き出しに携わった学校栄養職員の宮崎先生、PTA副会長の南 啓子さんも加わっていただいて、さらにお話を伺っていこうと思います。はじめに宮崎先生から、14日の前震の後、そして16日の本震が起こってから18日に再び学校に来られたときのことを



| 4がつ こんだてひょう | | お昼の献立 | | お昼の献立 | | お昼の献立 | |
|-------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 日 | お昼の献立 |
| 8 | お昼ごはん かぼちゃの煮込み ポテトサラダ ヨーグルト |
| 11 | お昼ごはん かぼちゃの煮込み ポテトサラダ ヨーグルト |
| 12 | 入学式 | | | | | | |
| 13 | お昼ごはん かぼちゃの煮込み ポテトサラダ ヨーグルト |
| 14 | お昼ごはん かぼちゃの煮込み ポテトサラダ ヨーグルト |
| 15 | お昼ごはん かぼちゃの煮込み ポテトサラダ ヨーグルト |
| 16 | お昼ごはん かぼちゃの煮込み ポテトサラダ ヨーグルト |
| 17 | お昼ごはん かぼちゃの煮込み ポテトサラダ ヨーグルト |
| 18 | お昼ごはん かぼちゃの煮込み ポテトサラダ ヨーグルト |
| 19 | お昼ごはん かぼちゃの煮込み ポテトサラダ ヨーグルト |
| 20 | お昼ごはん かぼちゃの煮込み ポテトサラダ ヨーグルト |
| 21 | お昼ごはん かぼちゃの煮込み ポテトサラダ ヨーグルト |
| 22 | 1年生をむかえる会・かんがい遠足 | | | | | | |
| 25 | お昼ごはん かぼちゃの煮込み ポテトサラダ ヨーグルト |
| 26 | お昼ごはん かぼちゃの煮込み ポテトサラダ ヨーグルト |
| 27 | お昼ごはん かぼちゃの煮込み ポテトサラダ ヨーグルト |
| 28 | お昼ごはん かぼちゃの煮込み ポテトサラダ ヨーグルト |

宮崎学校栄養職員(以下「宮崎」) 帯山西小にはその年に他の共同調理場から異動したばかりで、4月からの給食も3回、1年生は2回実施しただけでした。そんな中、14日の前震が起こりました。翌日15日は休校となったので、給食も一括でストップがかかりました。ただ青果物や豆腐など生ものの中止連絡が間に合わず、その分はお支払いしたと思います。15日に出勤してきたときは「再開はいつになるかな…」といった気持ちでした。

16日の本震では自宅が少し崩れてしまい、しばらく家の中にいることができませんでした。はじめは近くの避難所にいたのですが、やがて人が多くなり、そこを出て家族で車に避難しました。車の中で3日ほど避難生活を送りました。

—18日(月)に来られて、炊き出しに入りました。学校はどんな感じでしたか？

宮崎 もともと家庭科室は、避難所としてご飯を炊けるような施設ではなかったのです。備品は市販の炊飯ジャー、給食室にあったものも一番大きなものが一升炊き。正直、何百人という数の食事が作れるのか不安でした。また複数の電気炊飯器で一斉に炊くとブレーカーが落ちてしまうため、少し時間差をつけて炊く工夫もしました。

—献立も考えられました。

宮崎 17日は教頭の西岡先生が、18日からは教頭と私で支援物資の中から選んで考えました。最初の頃は缶詰中心だったと思います。それにおにぎり。調理環境が整うまでは、まずは缶詰など、その場で開けられ、衛生的に問題のないものから選んでいきました。

やはり一番怖かったのが食中毒でした。作る最中はとても気をつけました。家庭科室に掲示をし、手にけがや病気をしている人は中に入れない。調理や配食ではたくさんの先生方、後に保護者の方子どもに手伝ってもらいましたが、やはり素手

4月15日以降は幻となった帯山西小2016年4月の献立

で触ると、集団食中毒が怖い。ただ私もずっとそばにいて見ることはできないので、注意事項をまとめた掲示物を作ろうと思いました。担任の先生方に相談すると、見やすく、わかりやすいものを書いて作っていただきました。

—ホワイトボードに献立予定表を張り出され、避難者のみなさんが非常に安心されたと伺っています。

宮崎 献立はまず教頭先生がアイデアを出されて、私が確認をしました。19日以降は自衛隊の方が炊き出し支援に来られたのですが、最初は、一般の男性隊員を基準に炊いていらしたので、1人分がととても多くなってしまったのです。たくさん余ったため、2回目以降は毎回、米を炊く量についての相談を私が担当しました。

—出来上がり量の把握は、素人にはなかなかできません。食品をむだにしないことにもつながります。

森江 ここで自衛隊による炊き出し支援について、私から少し説明します。18日、隣の帯山中学校が自衛隊に支援を要請したと聞き、本校でも「教

育委員会を通して連絡をとってみよう」となりました。じつはこれもポイントだったのですが、本校は「お米だけ炊いてください」と自衛隊にお願いしたのです。だから到着も早かった。後で伺うと、「おかずも」「お風呂も」と頼んだところは、「順番があるから」と待たされてしまったそうです。大分県から10名ほどの隊員さんが来て、敷地内に車両を止めて炊いてくれました。鍋でお湯も沸かしていただき、缶詰や袋めんなどは一度温めてから提供することもできました。少し肌寒い日もあったので、とても喜ばれました。

宮崎 炊き上がったご飯は、おむすびにして提供しました。はじめは手袋をして、ぎゅっと握って渡していたのですが、強く握るとご飯が固くなり、高齢者の方は食べにくいという声もありました。そこで次からはふわっと軽くまとめる感じにし、使い捨て容器に入れて配りました。ただし、塩おにぎりだけはしっかり握って作りました。



—PTA副会長の南さんも当初からお手伝いに入っていたそうですね。

南 今から考えると冷や冷やものでした。家庭科室での炊き出しには子どもたちも入りました。衛生面には十分注意をしていましたが、それでも子どもは、洗った手ですぐにスマホを触ろうとしたり…。そういう面では少し不安でした。

—子どもたちにも手伝ってもらったんですね。

南 まったくいかなかったら間に合いませんでした。たくさん子どもたちがボランティアで来てくれて、お手伝いをしてくれました。楽しんでいても、決して「させられている」という感じではありませんでした。むしろ「役に立っているんだ」と誇らしげな気持ちだったと思います。

栄養士だからこそ

宮崎 食べ残しについても不安でした。もったいないのですが「ある程度時間が経過したものは処分してください」と伝えました。私の方では、なるべく処分するものが出ないように、今、避難所に何人いるか、先生方の協力をもとに数の把握を行い、献立を組み立てていきました。支援物資をたくさん届けていただいたので、何とかむだなく使おうと思っていました。



左上、炊き出しを待つ避難者の方々。左下、自衛隊の方々の炊き出し支援。右は4月21日の炊き出しの食事

支援物資は、ある日はお豆腐がたくさん届いたり、ミニトマトだったり、くだものがある日もありました。避難者の方も、毎日カップめんではさすがに飽きてしまいます。私としても、やはりビタミン類などはしっかりとっていただきたい。そう思いました。傷みやすい豆腐は一度に使い切ることを考え、みそ汁に使った残りは湯豆腐にして出しました。こんな感じで、届けられた物資を見ながら、「あっ、これができる!」と思って献立を考えていました。

—素人だけで食事を切り盛りすると、衛生や量、栄養にまでなかなか思いが至りません。栄養士の先生がいてくれると、とても助かりますね。

森江 やはり宮崎がいてくれたからです。今でこそ、こうして安心していろいろお話しできますが、あれだけががんばっても、事故を1つでも起こしてしまったら、すべてが「しなければよかった…」になってしまいます。そこは事故にならないよう、食べ物をむだにしないよう、そして体調も整うようにと、いつも給食室でしていることをやってくれる。

宮崎 そうですね。事故防止のためには「ふだんやっていることと同じことをすればいいんだ」と、そのときとても思いました。給食室でふだん調理員の方に伝えていることを、そのまま同じようにボランティアの地域の方々にも伝えていこうと…。また震災後は、給食室の地震対策についても、より注意を払うようになりました。

—宮崎先生も被災されて大変な中での勤務でした。

宮崎 でも震災後、炊き出しをしているときは、世にいう“何とかハイ”といった感じで、疲れを感じている余裕もありませんでした。やっと一息つけたのは、4月27日に自衛隊の方が撤収されて、避難所での炊き出しが一段落したときです。

じつはその年に異動になったばかりで、以前の



宮崎史子先生と帯山西小PTA副会長の南啓子さん

勤務は共同調理場で、栄養士がもう1名いました。1人で仕事をするのも本校が初めてで、とても気が引き締まる思いでした。赴任のあいさつをしたばかりでしたが、私の顔を覚えてくれていた子も何人かいました。さらに炊き出しがきっかけで、その後よく話しかけてくれるようになった子もいます。またPTA役員さんや保護者の方と、こうして親しくお話ができるようになったのも、この炊き出しがきっかけでした。

南 お互いの家族のこととか、いろいろな話をしました。距離もずっと近くなりましたね。

宮崎 それは調理員さんも言っていました。私と同じように、その年に赴任された方もいました。「学校のこともまだわからない、先生方もよく知らない。そんな中で思わぬ交流ができた」と。ある調理員さんは、高校生のお嬢さんがもともとボランティアに関心があったからと、炊き出しに連れて来てくれました。また担任の先生方のお子さんたちも手伝いに来てくれていました。

避難所に食事を配りにいくときは、子どもたちの方から積極的に被災者の方に声をかけてくれ、私自身、子どもたちに助けられた面があります。教員として後についていきますが、配るのは主に子どもたちでした。子どもたちから「お手伝いす

ることはありませんか?」と声をかけてもらえて、とても元気づけられたのではないかと思います。

—給食当番の経験もきっと生きたことでしょう。

森江 ふだん子どもたちがしていることができたし、先生方についてもそうでした。集団を指導することや物資の在庫管理も、いつも校務でされていることです。それを「やはり先生方だからこそ」と感心するほど、それは几帳面にやってくれました。また避難所には、障害のある方や体の不自由な方も避難して来られます。そうした方々にも、私たちはふだんから、もちろん子どもたち相手ではありますが、どう関わるべきかといった指導や教育を受けてきています。だからきちんと声かけができる。そして学校だけでは対応できない案件が生じたときは、市役所等を通して専門機関につながりました。その情報も先生方は持っています。あくまで結果的にでしたが、避難所運営の初動は非常にスムーズにできました。

紙管と布で作る最新式の避難所

—本震後、体育館に、世界的な建築家の坂茂氏による最新式の避難所が設置されました。

森江 これは保護者の方からの情報でした。早速、西岡教頭が坂茂建築設計事務所にメールで連



建築家・坂茂氏が提唱する最新式の避難所が体育館に設置された。

絡をとると、すぐ事務所から連絡が届きました。坂氏がおっしゃるには「設営まで3日ほしい」と。氏が提唱する仮設避難所は、資材の在庫を持たずに済む機動性で有名です。規格品の紙管を各地の工場に発注し、それを集めて現場まで運ぶ。そして設置という3つのプロセスからなり、それぞれ1日ずつかかるということでした。活動は世界中の寄附で賄われ、無償で提供してくださるといいます。本校の体育館の広さから120区画作れることもわかり、早速、お願いしました。

—21日夜の連絡で、3日後の24日に完成しました。

森江 熊本県内で、坂氏の避難所が本格的に設置されるのは本校が初でしたから、知事と市長が視察に来ました。ここで幸いだったのは、本震後、安全確認がとれるまで体育館を閉鎖していたことでした。もし体育館に先に避難者を入れていたら、一度、その方たちに一度外に出ていただかなくてはなりません。これはとても大変です。

視察後、市長は「今まで避難所といえば『まずは体育館へ』というのが常識だった。『体育館で足りないときに教室を』と考えていたが、避難所を回っていると、どうしても規模が大きくなればなるほど、人も増えるのでトラブルが多くなる。その点、教室なら小人数で、たとえ問題が生じてもそれほど大きなことにならない。また今回、帯山西小でわかったように、3日あればこうした立派な仮設避難所を作れる。とすれば、今後は避難所開設の手順としては、まずは避難者の方には教室に入ってもらい、数日間そこで生活してもらう。その間、安全確認をした体育館内にこのような避難所を設営し、完成した後で、避難者を教室から移す。そして空いた教室に今度は子どもたちを入れて学校再開という流れがよいのかもしれない」と言われ、とても印象的でした。またこれも本当に“結果的に”でしたが、避難する教室の割り当ても、なるべく近所や家族ごとにしていました。これも体育館避難所への移行に際してスムーズにできた理由だと思っています。

東日本大震災 被災校からの アドバイス

—東日本大震災後、学校ぐるみの交流が続けられていた宮城県気仙沼市立階上はしかみ小学校からのアドバイスがとても役に立ったそうですね。

森江 はい。これは本当にありがたかったですし、今回、本校の避難所運営がうまく行ったと評価していただけるのでしたら、おそらく最大の要因になったのではないかと思います。

階上小との交流のそもそものきっかけは、津波で大きな被害を受けた同小に小学生用の国語辞書を贈る活動からでした。そこからもう5年以上交流が続いています。しかし、私が校長として赴任した3年前は、全校的な盛り上がりに対し欠けつつあるきらいも見てとれました。交流を進めてくださる先生が本校に勤務されているうちはいいのですが、異動されてしまったらどうになってしまうのか、少し不安になったのです。そこでその先生とも相談して、学年ごとにどんな交流ができるか、計画を立て、総合的な学習の時間などカリキュラムに位置づける作業をしました。

たとえば、熊本は水俣病が起きた県で、本県の小学生は全員水俣に見学に行きます。ところが県外の子は、教科書でひと通り勉強はしますが、やはり知識でしかない側面もあります。逆に熊本の私たちは、階上小の子どもたちから地震が起きたときの体験や対応など、向こうの学校からしか学べないことを学ぶ…。そうした双方向的な学習ができるようにしました。そうすれば、帯山西小の価値ある活動にもなり、教員の異動に左右されずに交流が定着するだろうと。まさにその手応えを少し感じていた矢先の、この地震でした。

—18日に階上小からご連絡があったそうですね。

森江 はい。とてもうれしかったです。階上小の海原かいばら孝校長先生からは「いつまでも学校職員が避難所の運営をしてはいけません。どこかの

段階で地域に運営主体を移す。その後、早い段階で『避難者の会』といった自治組織を立ち上げていく形にしていけないと、学校はいつまでも再開できなくなりますよ」とアドバイスをいただきました。さらに「学校は学校本来の仕事をしなくてはいけません。ただそうは言っても、地域や避難者の会に運営を移した後は学校は知らんぶり…というのはできませんよ。バックアップすることが大切です。学校が持つノウハウをどんどん出して支えていくことでスムーズに運ぶのです」と教えていただきました。

おかげで私も、その後の会議等では、「ずっと学校が避難所を運営するものではありません。初期対応を誰もできなかったから、私たちでできることをやっているのです。今、やれるところでやていきましょう」と、自信を持って伝えられました。またその頃になると、先に申した事情から地震直後に来校できなかった地域の方々も、次第に学校に顔を出していただけるようになりました。

次は学校から地域に、いかに運営主体を引き継ぐかという仕事になりました。

運営主体を地域に移す

森江 ここでも、先生方が日頃行う校務のノウハウが役に立ちました。まず『帯西避難者の会』の設立です。教室に避難所を開設したとき、避難所で寝泊まりされていた方は300人ほどいました。しかし、中には地域の方でない人もたくさんいたのです。「親戚が被災したので様子を見に…」と宿泊所代わりにされていた方、「帯山西小に行くと、とにかく食事がいい。雰囲気もいいし…」と来ていた方もいました。

そこで始めたのが『登録カード』作りです。避難されている方が本当に校区の方か、そもそも避難を必要とされている方なのか。そこは私たちにはわからないわけです。ですから登録カードを作り、審査というほどではないのですが、体育館に

新設される避難所には、原則、地域の役員の方からの確認がないと入れないことにしました。これは先生方と自治会の方からのアイデアです。そして、この書式作りを本校の先生方が行いました。

この登録カード、じつは学校が毎年作って各家庭に記入していただく「家庭環境調査票」を流用したものです。すると最終的に300人の避難者が120人に減りました。もちろん、これをきっかけに自宅に戻られた方もいらっしゃいましたが、このカードに避難理由を記入して提出することができない人が、それほど多くいたということです。

—うへん、複雑な気持ちがあります。

森江 体育館内の3列のパーティションには、それぞれ「帯」「山」「西」の名を付け、それぞれ単身者、家族、女性の避難者に割り当てました。そしてステージ側から町内ごと入っていただく形に

しました。もちろん体の不自由な方はトイレの近くに作るなどの調整は行っています。

また、坂氏の避難所ができたとき、取材に来たマスコミの方から「確かにプライバシーに配慮されたよいものだが、この間仕切りの欠点は死角が多くなることです。一度カーテンを閉じたら周りからは何もわからない。逆に怖く感じる人もいるのでは…」といった指摘もいただきました。

そこで避難所内の「生活のきまり」を作り、「1人1協力」などの項目のほかに、「さわやかタイム」というものを設けました。「換気のため」と称し、朝と夜の7時に一斉にカーテンを開け、互いの安否確認をします。じつは、この「さわやかタイム」もふだん教室で行っていることです。「生活のきまり」も学校用の書式を流用して作りました。

そして4月28日(日)から避難所を教室から体育館に移しました。開設から1週間たったことを機に、避難所の運営主体も、学校から地域に引き継

平成28年4月22日

避難されている皆様へ

熊本市立帯山西小学校長 森江 一史
帯山西校区自治協議会長

「帯西避難者の会」への入会手続きについて

皆様におかれましては、ご不自由な生活が続く、大変な毎日をお過ごしのことと思います。学校は、5月10日(火)の再開を目指して、今後の予定を立てているところです。

さて、4月28日(木)の朝食後、避難所を各教室から体育館に移し、運営主体も学校から避難者の自治組織である「帯西避難者の会」に移行することになります。

つきましては、今後の生活を安全なものにするために、「避難者カード」のご記入をお願いします。1世帯1枚です。カードは本日配付し、下記の要領で4月25日(月)19:00までに申込みをお願いします。体育館の収容スペースの関係で、期限厳守をお願いします。

なお、4月28日(木)以降、本校での避難を希望されない場合は提出不要です。ご不便をおかけしますが、皆様のご理解とご協力をいただきたいと思います。

記

- 運営主体 帯西避難者の会(希望参加による自治組織)
- 管理協力 熊本市、帯山西小学校、帯山西校区自治協議会
- 入会手続き
 - 避難者カードを受け取る。
 - 入会の条件を確認する。
 - カードに記入する。住居が使用できない理由で避難を希望される場合は、自治会長等の証明印をもらう。(自治会にご相談ください。)
 - 本部に提出する。4月25日(月)19:00締め切り(厳守)
- その他 「避難者カード」は、本部にも24時間いつでも用意しています。

11

帯西避難者の会 登録カード 整理番号()

現在の避難場所 (年 組教室 ・ 運動場)

| | |
|----------------|----------------------|
| 名 前 (代表) | 性別 男 ・ 女 年齢 () 歳 |
| 住 所 | 町内 (校区にお住いの方) 町内 |
| 緊急連絡先 (携帯等) | 連絡先 () 電話番号 |
| その他の連絡先 (勤務先等) | 連絡先 () 電話番号 |

| 家族順 | 名 前 | 性別 | 年齢 |
|-----|-----|-----|----|
| 1 | | 男・女 | 歳 |
| 2 | | 男・女 | 歳 |
| 3 | | 男・女 | 歳 |
| 4 | | 男・女 | 歳 |
| 5 | | 男・女 | 歳 |

【4月28日以降の避難について】 AとBいずれかに○印をつける

A () 体育館での避難を希望する。
【理由】()

B () 運動場で車での避難を希望する。車のナンバー ()
【理由】()

※ () 上記のAができない場合、Bを希望する。車のナンバー ()

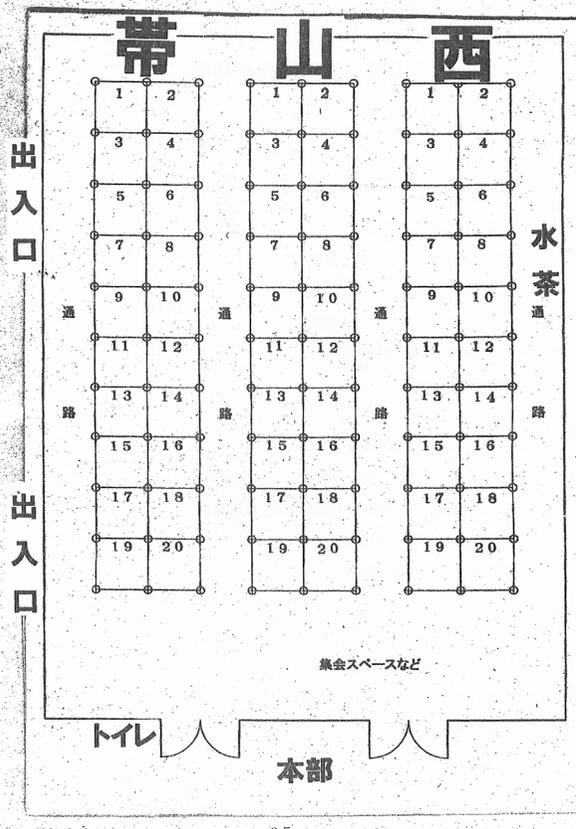
【健康状態】 ※持病をお持ちの方、健康面で不安をお持ちの方は、ご記入ください。医療機関の巡回時に相談できます。

【備 考】 ※その他、特に伝えておきたいことがあればご記入ください。

上記のものは、住居が使用できないことを認めます。
平成28年4月 日 () 町内自治会長 (代理) 印

○自治会長代理は、帯山西校区自治協議会役員に証明印をお願いします。詳しくは、各自治会におたずねください。
○ここに書かれた個人情報は、避難所の安全な運営のためにのみ利用し、それ以外には使用しません。

『帯西避難者の会』の入会案内と、『家庭環境調査票』の書式で作った『登録カード』



平成 28 年 4 月 28 日

帯山西小学校避難所「生活のきまり」

～「自助」「共助」のころを大切に～

帯西避難者の会

- お互いにすずんであいさつしたり、声をかけたりしましょう。
- 掃除もすずんでしましょう。通路等も互いにきれいにしましょう。
- 飲酒はできません。見かけたら本部までお知らせください。
- 校地内では、喫煙できません。学校周辺でも喫煙マナーを守ってください。
- 体育館入口は、通路側2カ所です。夜間（21 時～翌朝 6 時）は、施設します。また、夜間の外出は、本部にお知らせください。
- 夜間は、一部消灯します。明かりが必要な場合は、各自準備してください。
- トイレは、体育館後方と体育館外にあります。防犯上、夜間は体育館後方のみ使えます。
- 毎日7時と 19 時の「さわやかタイム」に、換気のため一斉にカーテンを開けます。
- 体育館内の学校備品には、絶対触らないでください。
- 体育館後方に談話スペースを設けます、ご自由にお使いください。
- 水は、必要なだけいつでもご自由にお取りください。
- 必要な物品がある場合は、近くの「物品係」「保健係」または本部に連絡してください。
- ごみは、決められた「ごみステーション」に各自お持ちください。

帯山西小避難所本部

29

体育館避難所の配置図と『さわやかタイム』などのきまりを記した『生活のきまり』

ぐことにしました。避難された方々も「子どもたちががんばっているのに、自分たちは寝てばかりいていいのだろうか…」と、積極的に避難所運営や『避難者の会』の仕事に関わってください、「早く自分たちががんばっていこう!」といった気運も高まっていきました。そして日を追うごとに1人、また1人と退所されていきます。出ていかれるときもパーティションを紙管のブロックごと外すだけなので、とても簡単でした。

学校再開は、5月10日からと決めました。その日に合わせ、体育館避難所は前日の5月9日までとし、残っていらっしゃったお年寄りの方にはパーティションごと、今度は近くの地域コミュニティセンター横の児童育成クラブ室に移っていただくことにしました。最終的に、本校避難所は5月20日で閉鎖しましたが、最後の方が出られるときも、「本当にお世話になりました」と感謝されて出ていただくことができたのは、とてもうれしかったですね。

学校再開に向けて

森江 次の仕事は学校再開です。私たち教員が一番困ったのは、子どもたちが再び学校に来たときにどう受け入れたらよいかということでした。

これについても階上小からのアドバイスが非常に役に立ちました。交流担当の今村教諭が、「今回、学校が避難所になったことで、正直、教員も今後どうしていったらよいか不安な面があります。階上小の先生方にFAXで質問してもよろしいでしょうか」と申し出てくれました。私は、「それはいいことです。海原校長先生には後で私からきちんとお礼を言いますから、まずは担当や現場同士でやりとりしてください」と指示しました。

今村先生は職員室に大きな模造紙を張り出し、本校の先生方に、階上小の先生方に聞いてみたい質問を付箋紙に自由に書いて貼ってもらいました。それを今村先生がまとめてFAXしました。

帯山西小学校から宮城県気仙沼市立階上小学校への質問 FAX

階上小学校

海原校長先生

先ほどはお忙しい中にお電話で失礼いたしました。温かい言葉に元気が湧いてきました。また、先日、防災担当の先生よりアドバイスをいただけたことが、スムーズな学校再開につながっており感謝申し上げます。

さて、お聞きしたいことはたくさんあるのですが、5月10日の学校再開に向け、取り急ぎお尋ねしたいことは以下の通りです。先生方、お忙しい中だと思いますが、よろしく願いいたします。

質問

① 学校再開後、子ども達が経験したことや気持ちを書かせたいと思うが、作文を書かせる時期として再開直後でもいいのでしょうか。

② このような長期にわたる被災後の休校の場合、家庭での学習課題をどうしたらよいのでしょうか。

学校によっては、家庭訪問の際にプリント綴りなどを配布したところもあるし、学校に自主学習用のプリントを用意したところもあります。

本校は、特別な課題は出さず、まずゆっくりすることや全学年までの漢字や計算の復習をできる人はしておいたらどうかと話しています。

③ 授業再開後、初めて会う子ども達にかけるとは？また、初めて会う際に気をつけたいことはどんなことでしょうか。

今回、被害の大きかった南阿蘇からの転入生もいます。（おうちが倒れているということ）本校でも、ほとんど被害のなかったところや建物の亀裂等で住めなくなったところがあります。

④ 心のケアをするためのアンケートは、どのように実施したらいいのでしょうか。

今のところ、アンケートは授業再開直後に実施しようと考えていますが、少し時間をおいた方がいいのでしょうか。

* 本校の防災担当（杉本）が、階上小学校の災害時の避難訓練の資料を一部いただけないかと申しております。お手数をおかけしますが、こちらの方もぜひお願い致します。防災計画を見直し、立て直します。

お願いばかりで申し訳ありません。

帯山西小学校 交流担当 今村 文子

階上小学校からの回答 FAX

帯山西小学校 今村文子様

ご質問に対する回答をお伝えします。帯山西小学校の実情に応じてご利用ください。

質問①の回答

- ・心の問題があります。PTSD の症状がないことが前提です。
- ・児童の状況（被災状況、生活状況、心的状況など）を把握するアンケートが優先です。
- ・また、保護者の承諾があるとなおよいと思います。全員に書かせることでクレームが出ることも考えられます。階上小学校でも文集に書かせて印刷しようとしたときにストップがかかったと聞いています。書ける児童と書けない児童がいること、書きたくても書けない、思い出したくないので書けない児童などいることが当たり前なので、もし書いたとしてもそのまま保存しておくことがよいかと思います。日常が戻ってきたときにふり返られる資料として利用できるかもしれません。

質問②の回答

- ・勉強で気が紛れる児童もいれば、勉強どころでない児童もいるはずですが。心配なのは怠惰的になってしまうことです。「何日まで何枚提出」のノルマを課さない自主学習プリント程度であればよいと思います。

質問③の回答

- ・子どもたちが安心・安全だと感じることができるような言葉や内容をお話してください。自宅の被災の有無にかかわらず、どの子も不安を感じているはずですが。先生方と子どもたちの信頼関係を深められるように。
- ・さまざまな子がいるので、無理強いをさせないような言動や指示。でも、児童の様子には常にアンテナを高くしながら、温かく見守りたいと考えます。

(例)

「大変なことになってしまったけれど、みなさんは元気でしたか？」

「今日からまたみんなで助け合いながら、明るく楽しく生活していきましょう」

「震災前と学校の様子が違っていることに気づいていると思います。多くの人が学校に避難してきています。こんな時こそ、みんなで助け合い励まし合っていきましょう。困ったことがあったら、何でも話してください」など

質問④の回答

- ・まずは家庭の被災状況の把握がよいと思います。ちなみに私の前任校ではこのような項目でリストを作っていました。

○氏名 ○現住所 ○連絡先（電話） ○兄弟・姉妹 ○所属地区名（被災前） ○家族安否の状況
○家屋の状況（損壊の程度） ○家族の雇用の状況（失業、営業未定など） ○転出の予定（有無）

- ・学校での児童の様子をしっかりと見取る。授業中のやりとりや何気ない会話の中で、子どもたちが元気か、変化があるか感じとれるはずですが。しかし新年度でもあるので新担任だけでは十分に把握しにくい場合もあるので、前担任とも情報交換しながら。
- ・アンケートは確かに有効に思います。あせらないで帯山西に合ったものを作成してはどうでしょう。参考資料はネット上にたくさんあります。
- ・教育委員会から SC（スクールカウンセラー）の対応について連絡があると思います。専門家の意見を聞きながら、より良いアンケートの事例をいただるとと思いますので、それを利用された方がよいかと思います。

以上、参考になるかわかりませんが、わかる範囲でお答えしました。あくまで事例ですので、児童や学校の状況を十分に把握しながらアレンジしてください。

何かありましたら、またご連絡いただければ、対応いたします。

「学校では安心していいんだよ」

森江 再開して、では何から始めたらよいか。もう26日間も休校になっています。職員間でもいろいろな意見がありました。「最初はやはり避難訓練をしなくてはならないのでは…」。それも大事です。「大変な経験をしたので、感じたこと、思ったことをふり返らせてみては…」。これも多くの方が思いつかれることでしょう。

しかし、階上小の先生方からのアドバイスを受けた私たちは、「子どもたちが久々に学校に来て友だちと会え、先生にも会えてよかったと思う。またそう思ってくれるためにも、まず子どもたちと十分にふれ合うことが大事ではないだろうか」と考えました。ですから本校が出した結論は「先生方、子どもたちと一緒に遊びましょう!」です。

校長として、久々に登校した子どもたちに、私はまず次のように語りかけました。「本当にみんな大変な体験をしました。校舎は所々ひびが入ったけれど大きな被害はありません。これからまた、

いつ地震が起こるかはわかりません。しかし、たとえみんなが学校にいるときに地震が起きても、先生や友だちがいます。だから安心していいんですよ。学校にいるときは、まず安心していいんだよ」と。その後は、全員で体育館や運動場で一緒に遊ぼうと、内容は学年ごとに考えていただいて取り組みました。階上小の先生方からのアドバイスがあったおかげです。

給食あってこそその「日常」

森江 じつは、市内の小学校の多くは同週の月曜日、5月9日からの再開でした。そんな中、本校がわざわざ10日という日にちを選んだのには理由があります。じつは、その日からなら給食が提供できたからなのです。9日に再開した学校の多くは、慣らしという意味もあり、初日は1・2時間目で子どもたちを帰したようでした。しかし、私たちは「学校が安心して生活できる場」であることを子どもたちに示すためにも、やはり給食が絶対に不可欠だと考えました。これも職員全員で十分に考えて決めたことです。

給食も含めて丸1日、震災前と同じように学校で生活してもらおう。そして「ああ、学校があって楽しかった。よかったな」と子どもたちに心底思ってもらいたいと考えました。

宮崎 校長先生から「いつからなら給食が始められますか?」と聞かれ、「10日なら大丈夫です」と答えました。幸い地震後、給食室への立ち入りをご遠慮していただいていたので、再開に向けた点検や準備はスムーズに進みました。

初日は先生方が、「子どもたちとたっぷりふれあいたい」ということで、献立も給食準備に時間や手間がかからず、しかも食物アレルギーで食べられない子が出

| 5かっ こんだてひょう | | 熊本市立帯山西小学校 2016年5月 | | | |
|-------------|--------|---|-------------------|--------------------------|--------------------------|
| ひょう | おかず | お弁当 | お弁当 | お弁当 | お弁当 |
| ひょう | おかず | お弁当 | お弁当 | お弁当 | お弁当 |
| 10 | コッパン | チリコンカン やさいスープ | エネルギーになる(煮) パン | からだをつくる(煮) からだをつくる(煮) | からだをつくる(煮) からだをつくる(煮) |
| 11 | むぎごはん | さばのソースに わかめの芽のもの のど | こめ | むぎごはん | むぎごはん |
| 12 | ごはん | し劇にじゃが ひじきあえ なっとう | こめ | むぎごはん | むぎごはん |
| 13 | セルフサンド | (ツナサンドの) コーンチチュ いりこアーモンド | パン | アーモンド | アーモンド |
| 16 | むぎごはん | (ふたどんぶり) こいわしフライ じゃがいものみそしる あなご | こめ | むぎごはん | むぎごはん |
| 17 | ミルクパン | スリザニアポリタン アスパラのゴマネズあえ きなこピーズ | パン | スリザニア | スリザニア |
| 18 | むぎごはん | (ピースほろとん) そくせきづけ はるすいとん | こめ | むぎごはん | むぎごはん |
| 19 | ごはん | しょうじとぶたにくのカレー いため トマトとたまごのスープ かなぎのつくだに | こめ | むぎごはん | むぎごはん |
| 20 | こめごはん | さかぬりバーのナッツあえ はるさめスープ レモンゼリー | パン | こめごはん | こめごはん |
| 23 | むぎごはん | ピピン(巨) ピピン(ナムル) わかめスープ ヨーグルト | こめ | むぎごはん | むぎごはん |
| 24 | あげパン | にくだんごのスープ にんじんカラダ | パン | あげパン | あげパン |
| 25 | むぎごはん | はるさめのいため トマトのじゃこあえ とろろのみそしる | こめ | むぎごはん | むぎごはん |

再開された帯山西小学校の2016年5月献立表

熊本地震 帯山西小学校のできごと (学校再開～「階上集会」まで)

| | |
|----------|--------------------------------------|
| 5月10日(火) | 学校再開、給食再開。 |
| 5月16日(月) | 最後の避難者が避難所から出る。 |
| 5月20日(金) | 帯山西小学校避難所の閉鎖。 |
| 5月22日(日) | 「第1回帯西を元気にする会」の実施。 |
| 6月4日(土) | 年度当初、5月29日(日) 予定だった運動会を日にちを変えて実施する。 |
| 6月18日(土) | 「第2回帯西を元気にする会」の実施。 |
| 6月24日(金) | 宮城県気仙沼市立階上小学校から関係者が来校。4年生で「階上集会」を開く。 |

ないメニューを考えました。「コッペパン、牛乳、チリコンカン、野菜スープ」です。チリコンカンはパンに挟んで食べます。

熊本地震に学ぶ

森江 校長として、避難所運営に関わって、一番よかったと思うのは、本校の先生方のがんばりを避難者の方、地域の方、保護者の方が間近で見てくれたことです。今は「学校と地域の連携」「保護者との信頼関係が大事」とよく言われます。学校側も頭ではわかっている、では具体的に何をどうしたらとなると、これがとても難しい…。

今回の地震で、たくさんの方々から「帯山西小は、地震の初期対応を先生方が本当に献身的に取り組んでくれた。まさに地域の中の学校として、先生方も被災されている中、行政がなかなか動けないときも、たまたま帯山西小に勤めていらっしゃるというだけの理由で、『できることはやります』と声を上げてくださった。本当に感謝、感謝です」と言われます。

実際、先生方のがんばりで避難所運営がとてもうまくできましたし、その仕事ぶりを見た子どもたちも「自分たちにも手伝わせて!」と、どんどん学校に集まってくれました。そうした本校の先生方に対する信頼や感謝が、言葉だけでなく、もう雰囲気として伝わってきます。先生方も「最初はどうなるか不安だったけど、やってみて本当によかった」と、誰もが感じていると思います。

5月22日には、本震後、奈良から駆けつけてくださった松川さんをはじめ、避難所でお世話になった方々を招き、地域の方と「帯西を元気にする会」を開きました。避難所では作ることができなかった大鍋の豚汁も作って配りました。

6月には2回目も開き、熊本のご当地ヒーロー『グランパワー ヒノクニ』を呼んで、子どもたちに「朝ごはんをきちんと食べること」「ゲームばかりして夜更かししないこと」などをヒーローから伝えてもらい、大好評でした。こうした催し物には、全国から寄せられた義援金の一部を有難く使わせていただいています。

ただ、お話しする中で、何度も“結果的に”という言葉を使いました。今回は本当に偶然や幸運も重なり、何事もよい方へよい方へと回っていきました。「これが、何か1つでも事故が起きていたらどうなっていたか…」。今もそう考えるときがあります。しかし、結果的に避難所の立ち上げを学校でできたことで、非常にうまく進み、その後の学校運営にも役立つことになりました。

さらに今回の地震では、階上小学校をはじめ、全国の学校や団体から温かい励ましのメッセージや支援物資、義援金を頂戴しました。本当にありがとうございます。私たちが階上小の先生方に助けていただいたように、次は私たちがこの経験をもとに何かの役に立ちたいと思います。ぜひこの私たちの体験を、地域の防災の在り方について考える材料にいただいたり、ここから何かを学んでいただくことができたとしたなら、大変うれしく思います。(談話より構成 編集部)